

第5学年

教科	課題分析	授業改善策
国語	(1)書くことを苦手としている子供が多い。特に、自分の考えを書くことや資料をもとに自分の意見を伝えることが苦手である。 (2)目的や意図、場面や状況などに応じて、どのような言葉で表現することが適切かを判断できるようにしていく必要がある。	(1)漠然と考え等を書かせるのではなく、具体的な視点を定めて自分の意見を表現する場を設け、繰り返し指導をする。 (2)子供を取り巻く言語環境を整備したり、継続的な読書を取り入れたり、総合的な学習の時間と関連させたりするなどの工夫をしていく。
社会	(1)地図帳や地球儀、資料集の扱い方、世界の海洋や大陸、日本の国土の位置など、知識として定着していない傾向がある。 (2)資料から分かることを選び取ることや、読み取った事実から自分の考えを導き出すことについて課題がある。 (3)社会的事象について、主体的に問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を高めていく必要がある。	(1)地図帳や地球儀、統計などの各種基礎的資料の読み取り方を繰り返し指導する。授業の中で取り入れていくことを継続して知識の定着につなげていく。 (2)資料の読み取り方を指導し、数値の変化や他の資料との差異などに着目し、自分の考えをまとめることができるような活動を多く取り入れる。また、適切な発問や指示を適宜行う。 (3)社会の課題について、課題解決のために、調べたことや考えたことを基に話し合う活動を充実させる。社会のために自分に何ができそうかを考える活動を増やす。
算数	(1)問題を解決しようとするときに、既習の知識・技能を意識していない子供が多い。問題の解決をする際、既習の知識・技能を意識させる指導の工夫が必要である。 (2)計算そのものを公式の適用に留まり、計算の意味の理解に至っていない子供が多い。主に、乗法・除法を含む単元では、計算の意味の理解、二つの数量関係を捉える力を育成する指導方法の工夫が必要である。 (3)「簡潔・明瞭・的確」に問題を解決することのよさを実感していない子供が多い。自己の問題の解決の過程を振り返ったり、他者の考えと自分の考えを比較したりすることにより、よりよいものを求めるという点で、学びに向かう力、人間性等を育成する指導の工夫が必要である。	(1)-1「問題の設定の工夫」既習の知識・技能を用いれば未習事項も解決できるのではないかと考える態度を養う。 (1)-2「価値付け」既習の知識・技能を活用している子供の考えや発言を価値付ける。 (2)「板書の工夫」問題の解決を式のみで指導することのないようにする。習熟度別指導によって子供の実態の把握を行い、それに応じて図や数直線を活用した板書を取り入れていく。 (3)「問題の設定の工夫」よりよいものを求めようとするためには、問題の設定が重要である。そのために、具体物を用意する等の教具の充実を図ったり、子供に身近な場面や発展性を見出せるような場面を問題に設定したりする。
理科	(1)多くの子供は、観察・実験に意欲的に取り組んでいるが、観察のポイントや何を確かめるのか見通しをもたないまま活動に取り組んでいる児童が見られる。 (2)観察・実験に取り組んだ後、結果や考察、結論をうまくまとめられない子供が見られる。	(1)観察の目的を明確にしたり、問題に対する仮説を立てたりする時間を十分に取って、観察、実験の意味を明確にしてから活動に取り組めるようにする。 (2)結果と考察、結論の違いをしっかりと理解させる。その上で、結果は表やグラフなどの描画や記号で表すこと、考察は結果から分かる共通性や規則性を見出すこと、そして、結論は最終的に得られた判断として短い言葉で表現することなどを具体的な例を示しながら指導していく。

音楽	(1)和音のはたらきについては、様々な楽曲を通して繰り返し、感じ取っていく必要がある。リコーダーは、だいぶ習熟してきたが、経験値により個人差が見られる。 (2)リズム打ちなどの演奏の工夫では、どのような音楽にしたいかという思いや意図をもてない子供もいる。	(1)旋律に合う低音や和音の響きを探してつくったり、和音の中に含まれる音を重ねて歌ったりする活動を通して、音の重なり的美しさや和音の響きの違いや変化を感じ取れるようにしていく。 (2)どの領域でも、曲想と音楽の構造との関わりを丁寧に扱い、曲や演奏のよさを見出せるようにする。
図画工作	(1)創造的にデザインを発想・構想できる子供もいるが、いつも同じ色ばかり使う子供や、文字をそのまま線で書くことしか思い浮かばない子供もいる。 (2)図画工作が好きな子供が多く、主体的に課題に取り組む姿が見られる。鑑賞で見方を深めるところにまだ課題がある。	(1)多様な課題を経験させることや、偶然できる形から発想する課題などに挑戦させることで、発想を促していく。 (2)鑑賞の視点をあらかじめ提示することで、他者の作品や自分の作品の見方を深めることができるようにする。
家庭	(1)学習に対して、関心・意欲が高い子供が多い。また、身に付けた技能を生かして、家庭で実践しようとしている姿も見られる。家庭生活での生活体験の違いから、個人差も大きい。 (2)家庭での生活経験の差があり、自ら課題を見出し、課題を設定することが難しい子供の姿が見られる。	(1)学習した内容の定着を図るため、家庭との連携を密に図り、子供が学習した知識や技能を日頃の家庭生活で生かせるようにする。 (お手伝いカードやお小遣い帳等) (2)ワークシートを活用し、課題設定や解決方法を自ら考えられるようにする。また、授業後に振り返りを行うことで、実践の評価・改善を行い、表現方法の定着を図る。
体育	(1)日常的な運動や遊びの経験の違いから体力の個人差が大きい。それぞれの運動の領域によっては、知識、技能ともに個人差が大きい。 (2)個人の課題解決のために、工夫して運動する力が身に付いていない。	(1)運動の特性に応じて、楽しさを十分味わえるような学習過程の工夫や指導方法の工夫を行う。また、子供が動きのポイントを理解し、互いに教え合える機会を設ける。 (2)学習カードを活用し、子供一人一人に自分に合った課題を設定させ、目的意識をもって運動に取り組ませる。
外国語	(1)学校の外で学習している子供と、そうでない子供で差が見られる。昨年度までの内容が定着している子供とそうでない子供の個人差が大きく、4年生の学習内容の基礎的・基本的な学習内容の定着も図る必要がある。 (2)発音することに苦手意識をもつ子供が多い。聞こえた音を繰り返すことはできるが、文字や写真を見て正しくそれに合った外国語を発音できる子供は少ない。	(1)毎回の学習を始める前に前回までの復習を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようにする。 (2)ICTをフラッシュカードの要領で効果的に使い、新出単語を言えることができるように繰り返し復習していく。ALTを効果的に活用し、ネイティブの発音でたくさん練習を重ねる。また、外国語特有の音声を発音することができる活動を取り入れる。